

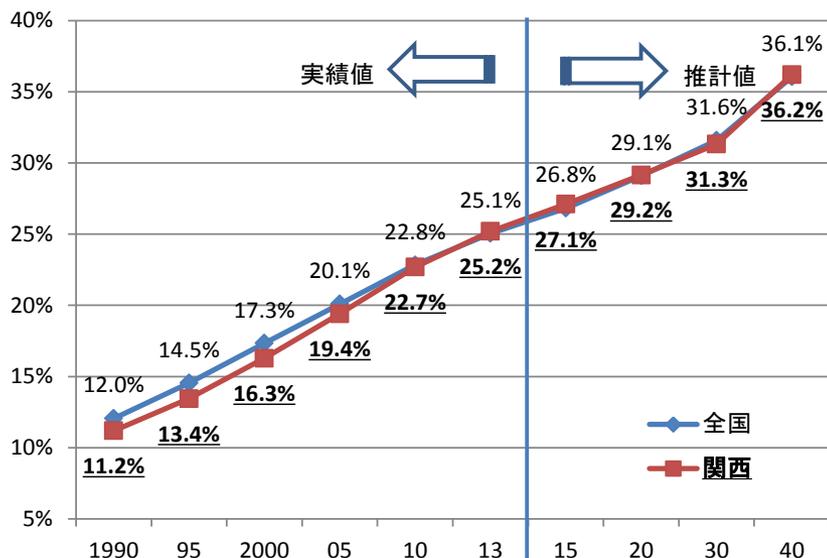


関西経済の未来： 人口減少下で生きる路

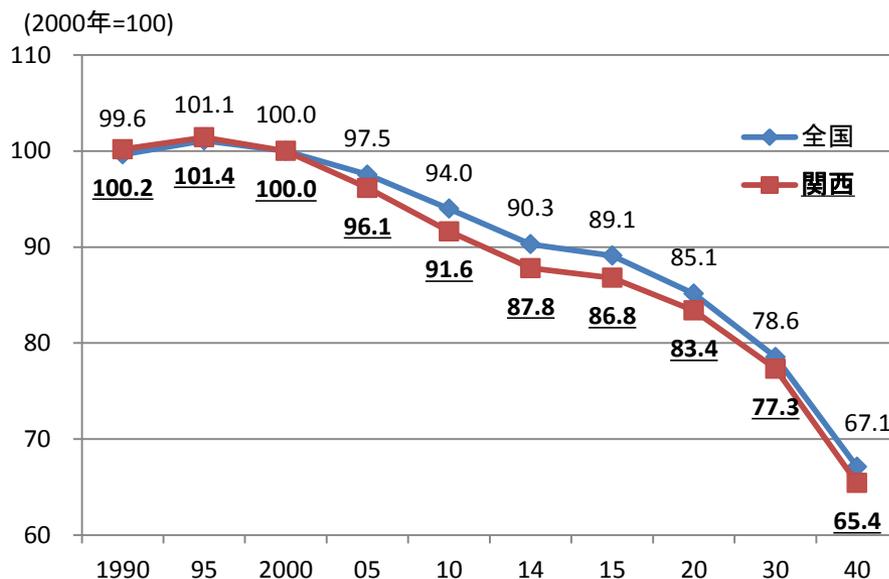
老いる関西：ピンチをチャンスに

- 関西の高齢化率は上昇を続け、2013年には25.2%、2020年には29.2%に達する。2040年には4割弱が高齢者となる。また、**高齢化率の上昇ペースは全国より速い。**
- **生産年齢人口は全国よりも関西の方が早く減少する**見込み。また、就業者全体が減少する中で、今後、**労働力の高齢化は一層進展していく**と予想される。

■ 高齢化率の全国と関西の推移 ■



■ 関西の生産年齢人口の推移 ■



出所：総務省『国勢調査』、『推計人口』、国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』『日本の地域別将来推計人口』

健康・医療産業の好循環で成長の加速を

現状認識・発生する問題

【現状認識】

- ・長期的な人口減少トレンド
- ・全国より速い高齢化率の上昇
- ・後期高齢者人口の急速な増加
- ・生産年齢人口が関西の方が速く減少
- ・就業者減少と労働力の高齢化が一層進展
- ・精神疾患や生活習慣病、がん、認知症の増加
- ・厳しくなる医薬品関連産業を取り巻く環境

【発生する問題・課題】

- ・医療費・介護費の増加
- ・高齢化に伴う罹患率の上昇
- ・精神疾患等による経済的損失が拡大
- ・医師の偏在や若年人口の都市集中に伴う少子化
- ・依然として大きなドラッグラグやデバイスラグ
- ・労働力減少による経済力低下

健康寿命の延伸

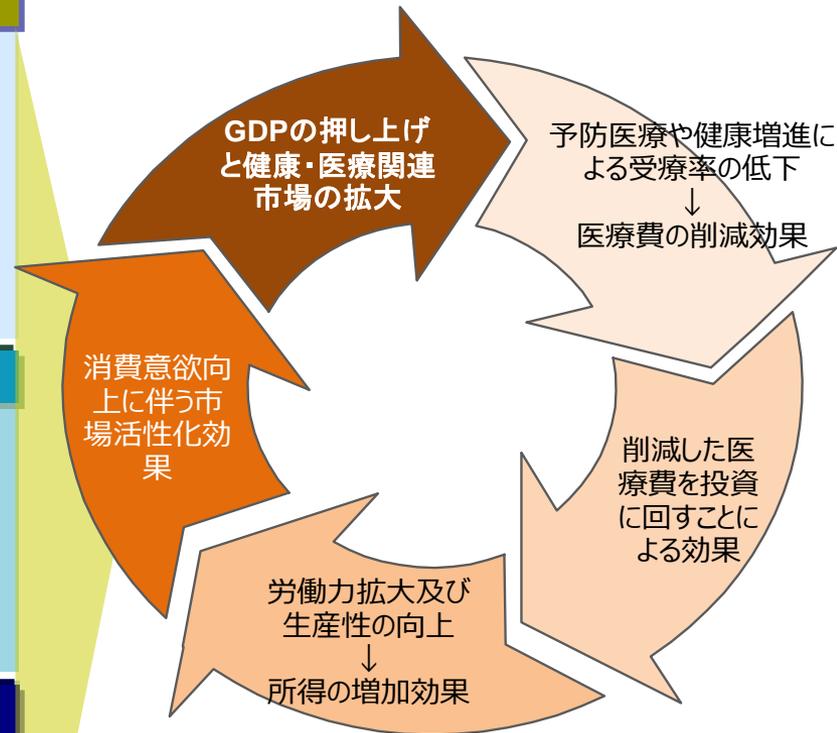
- ・予防医療による受療率の低下と医療費削減
- ・QOL向上につながるまちづくりも含めたトータルヘルスケアの実施
- ・多様な患者ニーズに応じた医療メニューの提示

高齢社会への対応

- ・労働力の増加、女性や高齢者を中心とした就業率向上（→**関西経済白書 第6章**）
- ・地域包括ケアなど、地域で高齢者を支える環境づくり
- ・高齢者の消費意欲の向上

先端健康・医療産業の振興

- ・アンメットメディカルニーズへの対応
- ・情報通信産業等との連携による新たなソリューション提供
- ・ロボット等医工連携による機器開発
- ・イノベーション創出に向けたアカデミアと企業の連携や、規制緩和の実現



**好循環が回ること、
医療費の削減と、関西経済の
活性化が実現**

インバウンドの関西各府県への 影響：GDPと雇用

付加価値波及効果：100万円、%

	合計 (2013年)	合計 (2014年)	寄与 (2013年)	寄与 (2014年)
滋賀	10,280	15,319	0.17	0.25
京都	69,712	90,845	0.72	0.91
大阪	132,098	192,865	0.36	0.51
兵庫	32,073	45,295	0.18	0.24
奈良	5,094	7,409	0.14	0.20
和歌山	7,128	11,274	0.21	0.32
関西計	256,385	363,007	0.33	0.46

雇用波及効果：人、%

	合計 (2013年)	合計 (2014年)	寄与 (2013年)	寄与 (2014年)
滋賀	1,441	2,204	0.20	0.31
京都	13,383	17,607	1.05	1.38
大阪	24,201	35,364	0.58	0.84
兵庫	5,375	7,503	0.21	0.29
奈良	939	1,361	0.15	0.22
和歌山	1,240	1,942	0.27	0.41
関西計	46,578	65,981	0.47	0.66

出所：<http://www.apir.or.jp/ja/research/scholar-watch/4705/>

関西の成長戦略とデータ利活用

- APIR(アジア太平洋研究所)におけるデータ利活用
 - 景気モニター、予測、年次白書
 - データカバレッジ：ほぼすべてのマクロデータ、ミクロデータは少ない
 - <http://www.apir.or.jp/ja/index.html/>
- 課題
 - 個別データと包括データのリリース・タイミングの差

続き

■ 課題：続き

- 適切な戦略には早期で正確な診断が必要
- 具体例：関西各府県GRPの早期推計化
- 景気診断迅速化への補完手段として各自治体とのネットワーク化を進める
- 問題は成長戦略を支援するデータが作成されているか
- ポイントは地域データからのボトムアップ
- 地域創生時代のデータの利活用の在り方
- ビッグデータ活用も地域目線から